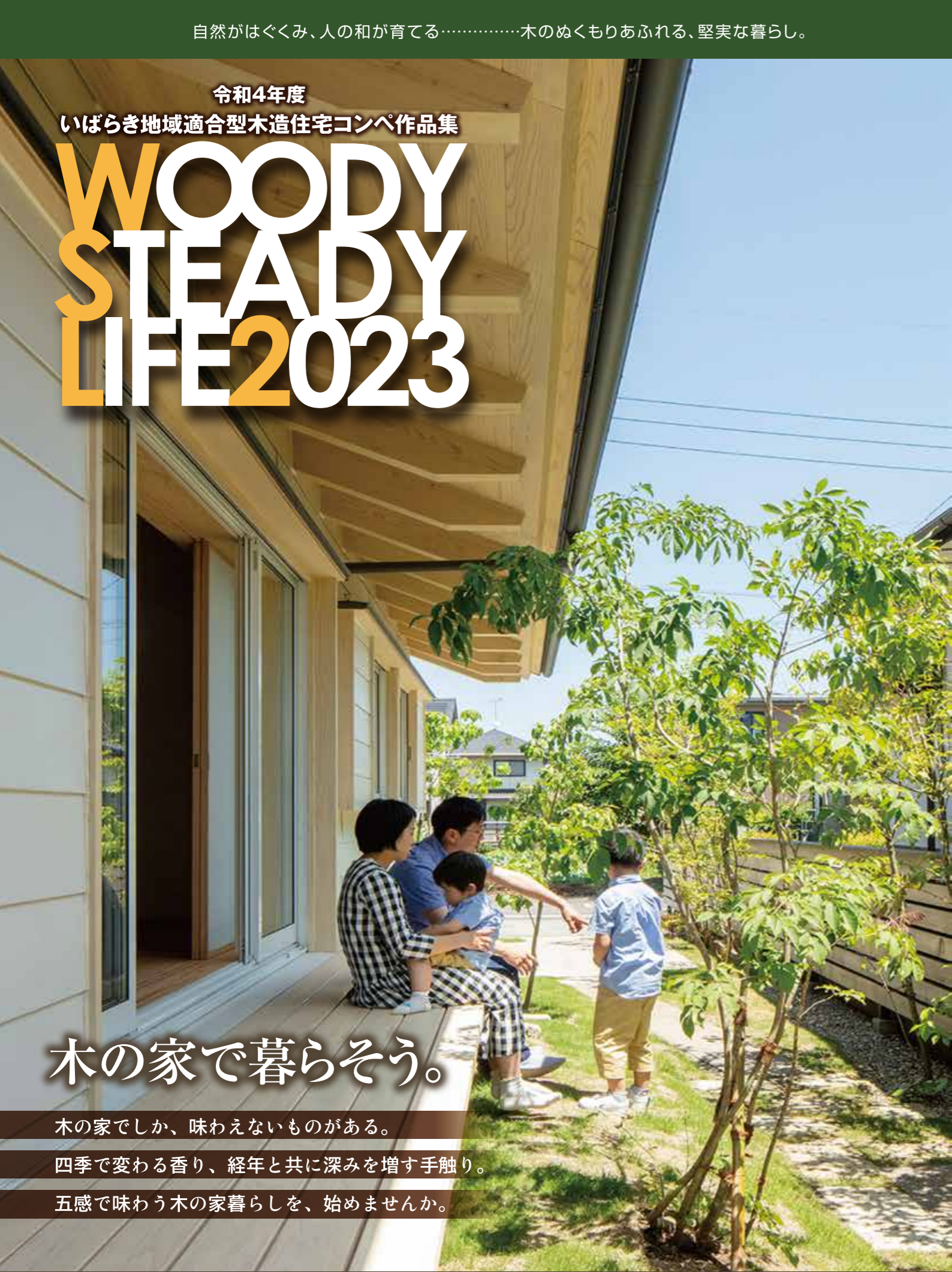


自然がはぐくみ、人の和が育てる……………木のぬくもりあふれる、堅実な暮らし。

令和4年度
いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集

WOODY STEADY LIFE 2023



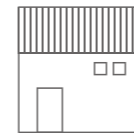
木の家で暮らそう。

木の家でしか、味わえないものがある。

四季で変わる香り、経年と共に深みを増す手触り。

五感で味わう木の家暮らしを、始めませんか。

茨城県木材協同組合連合会



令和4年度
いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集

この冊子は「いばらき地域適合型木造住宅」の基本的な考え方を啓発普及するために作成されたものです。掲載される記事内容はすべて各チームからの提出書類を要約したもので、「宣伝広告」を意図したものではありません。
また当連合会では、これら各グループへの仲介斡旋は一切行っておりません。



木造住宅相談店

主催／茨城県木材協同組合連合会
協力／茨城県
後援／(一社)茨城県建築士事務所協会・(一社)茨城県建設業協会

〈お問合せ先〉
茨城県木材協同組合連合会
TEL.0294-33-5121 (代) FAX.0294-33-5191
(e-mail) mokuren@atlas.plala.or.jp
茨城県土木部都市局住宅課
TEL.029-301-4759 FAX.029-301-4779

地元の大工が地元の木で作る。
日本の「いい家」のつくりかた。



■地元の大工が地元の木で建てるという家になる、と言われます。南北に長い日本は気象や地理条件が地域で異なり、その土地独自の材の選び方、組立方など長年積み重ねられた経験や工夫を取り入れる地元の大工こそが、長く住める家を建てられるからです。また、地域大工・工務店は完成後もきめ細かいアフターメンテナンスや修繕に対応します。地域には信頼関係に根ざした安心できる家づくりのシステムが構築されていたのです。■茨城県では家づくりの原点に戻り、地域が育んだ木材を利用

し現代のライフスタイルに合う木造住宅を適正な価格で提供するため、地域の木工・工務店と建築設計事務所が連携・協力しながら、家づくりを通して建築主との信頼関係を育てていく、安心と信頼の地域ルール「いばらき地域適合型木造住宅供給システム(自然が育み、人の和が育てる)」を確立したいと考えています。■関連事業者の連携、協力のもとに提供された良質な木造住宅の企画や提案を含む建築実例を募集し、ここにまとめました。皆様の家づくりの検討の一助となれば幸いです。

最優秀

ひたちなかの平屋

岩瀬卓也建築設計事務所 + アトリエキラク(株)

木造建築が魅せるダイナミズムと
次代に残したい大工技術の見事な結晶。



リビングダイニングから玄関ホールまでの見通しは、ダイナミックでありながらその重厚さに「包まれる安心感」を感じさせる。



道路から見る東側外観。



玄関から見たポーチ。木製玄関戸は、樹齢百年以上の厳選された地域材を、職人の連携で作りました。



■四大家族が暮らす平屋は、る40ミリの厚板は、地域材日本の気候に適した南北に下る勾配屋根。大工技術の粋を集めた構造美が際立つ矢切り部分は道路に面し、近隣住人や通行人に木造住宅の魅力を伝える。屋内の梁上三角壁も、ガラスによってLDKと各室をシームレスにつなぎ、地域材が映える穏やかな空気感で満たした。木造建築のダイナミズムが集約される屋根と天井の一体化は、大工技術の継承という観点だけではなく、地域材の魅力発信に寄与する。■素足でも心地よさを感じ

● ひたちなかの平屋

岩瀬卓也建築設計事務所 + アトリエキラク(株) 01

● 田園の家

Coba設計 + 金澤建築 02

● (リフォーム賞) 笠間の古民家

hana建築設計室 + 久野建築 03

○ 緑町の家

(株)藤井設計 + (株)吉田工務店 04

○ 猫と主人の家 とくどき息子達

(株)アトリエ翔 + (株)アトリエ翔 04

○ いばらきの家/匠

(株)茨城県南木造住宅センター + (株)茨城県南木造住宅センター 05

○ 茨城町の家

hana建築設計室 + 久野建築 05

「いばらき適合型木造住宅」とは

06

【講評】

(一社)茨城県建築士会会長 柴 和伸 07

● …令和4年度いばらき地域適合型住宅コンペ「最優秀」作品

● …「優秀」作品

● …リフォーム賞作品

○ …令和4年度いばらき地域適合型住宅コンペ応募作品

※応募作品ページ以外および表紙に掲載された写真はすべて「最優秀賞」ひたちなかの平屋のもので、※受賞者の意向等により「坪単価」「延床面積」「平面図」等の掲載がない作品もございます。ご了承ください。

※各作品の坪単価は「延床面積」は別価格です。

環境になじみ、住まう人の肌になじむ。
新しさと懐かしさが共存する、原風景の家。



食堂スペースにゆとりを与える広縁空間。玄関からの動線と視覚的な広がり心地よい。



自然豊かな立地にとけこむ外観。



台所からも食堂からも、雄大な自然が目に入る。



一階天井部。垂木は飽きの来ない美しさ。



1F

2F



■那珂市の国道近く。雑木林や畑が広がる自然に囲まれた豊かなランドスケープと共鳴するように、真四角に収めた二階部分の周りを平屋が囲うシンプルな構成とした。平屋部分には玄関から台所、水廻り、個室、納戸：といった生活スペースをまとめ、広間を中心に回遊できる淀みのない動線を確保。屋根を支える八溝杉の垂木を現しにし、特徴である平屋の屋根を室内でも感じられる。広間の窓際は低く抑えた深い軒と相まって気持ちよい縁側のような空間に。二階は主人の個室。階下との程よい距離が在宅仕事にも対応できる配慮をした。土に触れながら、自然と共に広々と暮らせる、小さいけれど豊かな空間を味わえる家。県産材八溝杉を柱や梁など構造材に積極的に活用。特に二階の方形屋根は木工による手刻みで加工された逸品。一回の屋根を支える垂木は尺ピッチで並べ、化粧材として現しの仕上げに。外壁は八溝杉を鏡張りを使い、近隣の農家と風合いを揃えるように塗装。どこかしら懐かしさのある佇まいとなった。機能性もありつつ懐かしい、日本の原風景に溶け込むような味わいと風格のある家となった。

リフォーム賞

笠間の古民家

hana建築設計室 + 久野建築



大黒柱が魅せる見事な曲線が、室内に表情をつける。台所は力強い梁を見せるためダクトを現しにした。



大黒柱、敷台、建具を活かすために、LDはステップフロアに。



当時の敷台とサクラの框。建具は当時のまま

■およそ百三十年前に伝統建築工法で建てられた古民家。古き良き家づくりの魅力を残しつつ、「今」に適した住まいに変えるリフォームを実現した。約十五帖あった土間は玄関とリビングに。当時の敷台とサクラの框を活かすためスキップフロアで段下げた。台所には当時の力強い梁が残っており、これを余すところなく見せるためにレンジ排気ダクトを現しにした。馬小屋だった土間スペースは予備室に。■先祖代々受け継がれてきた家を、先祖代々大工として技術を受け継ぐ地元の職人がリフォームした。歴史の重みと経年が織りなす力強い住まいの風格が生きる、理想的で貴重なリフォームとなった。■素材は狂いにくく、木目と赤みが非常に美しい八溝杉を多く採用。手洗いとキッチンのカウンターは目詰まりの杉材。下駄箱やクロゼットの内部は杉相ジャクリ材を採用し、調湿効果を狙う。内部枠材や窓枠などにも杉材を採用し、統一感ある空間となった。

申請者：hana建築設計室(029-355-2826) / 工事施工者：久野建築(0296-72-9768) / 延床面積(坪)：84.62m(25.6坪)・8LDK



築130年の風格漂う外観。



約10帖のウッドデッキ。

歴史と経年の味わい深い
大正時代の古民家を再生

狂いにくく木目と赤みが
美しい八溝杉が映える

申請者：coba設計(090-4787-8727) / 工事施工者：金澤建築(0294-87-0240) / 延床面積(坪)：96.05m(29.00坪)

緑町の家

(株)藤井設計 + (株)吉田工務店



申請者:
(株)藤井設計 029-251-6330
工事施工者:
(株)吉田工務店 029-254-1757
延床面積(坪):
180.17㎡(54.51坪)
坪単価:
825,500円

市街地に位置する自然豊かで閑静な立地。環境や家並み、敷地の南側の豊かな緑を意識し、眺望や日照を優先してメインの居住スペースを2階に。1階には施主の仕事部屋兼アトリエを設け、敷地の隣接西側にある幼稚園に面してはピアノ室を兼ねた子ども部屋を。静かに集中できるエリアと、賑やかな音や声が響くエリアを区分した。外部形状や外装色は、周辺の環境に溶け込むよう考慮。構造は木造在来工法を採用。耐力壁は構造面材。環境に配慮した断熱材で、木質系外張り断熱材(40ミリ)と、木質系充填断熱材の仕様とした。



いばらきの家 / 匠

(株)茨城県南木造住宅センター



つくば市の東の台地。生活に必要なものを厳選したシンプルな住まいは、素足が心地よい生活と上質な空間を実現した。長期優良住宅認定、高い断熱性能とパッシブデザインを施した。敷地の魅力を十分に堪能できるように設計した南の地窓と北の高窓は、夏の涼を生み出す。同時に、美しい周辺の景色を楽しみながら冬の陽光を取り込む南の開口部として機能する。ペレットストーブも冬の生活を味わい深く演出する。県産松を採用した適材適所の各造作収納など、多忙な施主夫婦と愛犬の快適な生活のための工夫も光る。素足で歩くのが心地よい、自然と共に優しく生きる家が実現した。

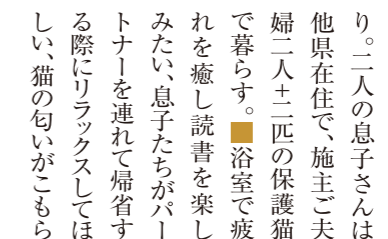
申請者・工事施工者:
(株)茨城県南木造住宅センター
029-852-8010
延床面積(坪):
80.59㎡(24.42坪)

猫と主人の家

あるじ

ときどき息子達

(株)アトリエ翔



「カッコいい家で暮らしたい!」施主のひと言から始まった家づくり。二人の息子さんは他県在住で、施主ご夫婦二人土二匹の保護猫で暮らす。浴室で疲れを癒し読書を楽しむみたい、息子たちがパートナーを連れて帰省する際にリラックスしてほしい、猫の匂いがこもらないよう通風を良くしたい、猫のトイレルームも欲しい…。様々な要望に、「カッコいい」要素を加えた。リビング窓は大解放に。キッチンが可動式ルーバー窓。無垢の木と鉄のアイアンが似合う洗練された家は、施主ご家族にも猫にも、機能的で暮らしやすく、満足度の高い家になった。

申請者・工事施工者:
(株)アトリエ翔 029-239-5694
延床面積(坪):
103.51㎡(31.00坪)
坪単価:
596,000円

茨城町の家

hana建築設計室 + 久野建築



茨城町。林に囲まれた雰囲気溢れる敷地に「アメリカンスタイルの家を建てたい」との要望。大きな三角屋根に横張の外壁、開放的なリビングから一体的に繋がるカバードポーチ。いつか映画で見たような、カントリー調のイメージを大切にしたい。アメリカ雑貨が好きな施主の遊び心を思いきり開放するため、内装はあえてシンプルにし、ライフスタイルに合わせて臨機応変に対応できる構造にした。休日ごとに家族や友人たちと、この家のリビングやデッキ、庭で賑やかに過ごす風景が浮かんでくるような、夢と希望をいっぱい含んだ家になった。構造材には県産材を50%以上使用。リビングの大黒柱となる六寸角の柱を現しで採用し、内部建具および枠材巾木などに杉材を採用。地域材とその他の無垢材をバランスよく融合させた。

申請者:
hana建築設計室 029-355-2826
工事施工者:
久野建築 0296-72-9768
延床面積(坪):
122.14㎡(36.95坪)
坪単価:
595,399円

ご存知ですか？ 地域の木材を使うメリット。

1 地域の風土に馴染みやすい！

地域材は腐りにくく、家が長持ちするといわれます。

日本人は古来から「地元の木を使った家」で暮らしてきました。今で言う「地産地消」です。木は、土地の気候風土、環境に適応しながら成長します。つまり、その土地で成長する「抵抗力」をつけながら育つということ。家づくりにその適応力を活かすことで、丈夫な家を作りだしているのです。



2 地域ごとの「つくり方」を熟知している！

その土地の家づくりに精通した、プロが身近にいます。



「その土地で育った木を使って、その土地の大工が建てる家が、最も丈夫で安心」。気候の変化や風の入り方、夏の暑さや冬の雪に対応する方法など、その土地の「家のあり方」を最もよく知るのが、その地域の大工です。色々なことを知り、教えてくれる身近なプロの知識を最大限に活かす家づくりはいかがですか。

3 身近な環境で生まれ育った材料をつかうから、材料の輸送にかかるコストを軽減できます。

建材を家づくりの現場に持ち込む運搬距離とコストは比例します。同時に、輸送過程でのCO2排出量は、地域材以外の外材を使う家づくりの数分の一に抑えられます。お財布と環境への負荷が少なくなることです。地域材を使う家づくりの、大きなメリットのひとつです。



環境に優しく、コストを抑えながら、丈夫で安心できる家を実現。

あなたの大切な家づくりをていねいに支える、地域材のご利用を推進しています。



「いばらき地域適合型木造住宅」とは？

気候風土を踏まえ、地域材を活用してつくる家。

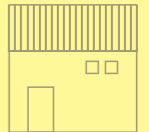
茨城県の気候・風土等の地域性を踏まえ、地域材(※)を活用し、かつ、ユーザーにとって充実感のある住宅とし、これからの木造住宅の指針となるべきコンセプトを明確にした住まい。

※地域材とは次のいずれかに該当する木材及び木材加工品。

①県内の森林から生産された原木により製材されたもの。②県内の製材事業所で製材されたもの。

【主な設計基準】

- (1) 地域材を構造材全数量の50%以上使用していること。
- (2) 内装材として、地域材を積極的に活用し、快適でやすらぎのある住空間とすること。
- (3) 住宅の長期の耐久性を確保し、また、地域の自然、景観、生活様式等と調和し、世代を超えて継承・持続されるような工法・間取り・デザイン等を採用すること。



地球環境を守るサイクルとは？

「森林育成」「木材利用」「省エネ貢献」。次代につなぐ、大切なサイクルです。

■森林を育成するためには、木材の利用を促進する必要があります。木材で建築資材を作ることは、他の原料よりも効率がよく、また余分なエネルギーがかかりません。冷暖房費の節約にもつながり、省エネへの貢献度も決して小さくありません。■家づくりに用いられた木材が、いずれ土をはじめとする自然に還り、また森林を育成していく…。自然の循環、持続可能なエネルギー確保のために、木を使って家を建てることは、非常に有用なのです。



なぜ地域材がいいの？

地域の森林の活性化を図り、地球にやさしい家づくりができる。

■森林は、化石燃料などの代替エネルギーとして注目されています。成長期に高レベルの二酸化酸素削減効果を発揮し、地球温暖化の防止策としても役立ちます。■地域の森林資源を積極的に活用し、同時に植林を進め、常にバランスのとれた循環を整え、資源を生み出しながら、地球環境保護に貢献する森林を育成できる。地域材を使用する意義はここにあります。





令和四年度「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」には、建築設計事務所と、それぞれの製材所や高い技術を持つ大工さんなど、専門技術者の皆さんが協力し合いながら知恵を結集し、地域が育んだ木材を活用した作品のコンペでありましたが、七作品と、大正時代に建てられた古民家リフォームの二作品となりました。応募作品の少なさには、終息が見られないコロナ禍の影響もあるものと考えられます。

竣工した住宅によるコンペは、今年十二回目を迎え、設計者・施工者の経験と知恵を傾注し、七作品それぞれが敷地を有効に活かし、茨城の気候風土を踏まえながら地域材を用い、設計者・施工者がその地域での生活の経験や知恵によって培われた専門技術

を注いで造られた住宅であり、木造住宅の素晴らしさを感じさせてくれました。

審査は、七名の審査委員それぞれが、応募作品の中から最優秀作品一点と、優秀作品一点の選出とし、審査委員の投票の結果、最優秀作品「ひたちなかの平屋」、優秀作品「田園の家」の二作品に決定いたしました。また、リフォーム賞として、百三十年前に建てられた古民家をリフォームされた、「笠間の古民家」が選出となりました。選外となった応募作品にも、素晴らしい力作があり、応募された方々には審査委員長として感謝申し上げますと共に、次の機会にはさらに一層の力作の応募をご期待申し上げます。

【最優秀賞】

「ひたちなかの平屋」

東面道路の玄関口に、勾配屋根の矢切部分の構造材を表し、梁上のガラス壁によって、木材の力強さが大工さんの技術と共に、道行く人に印象付ける外観がつけられています。素晴らしい住宅です。また、庭に面した居室は、各室とも強化ガラスで解放感があり、リビングやダイニングからも来客が確認できるプランニングとなっています。

高度な大工技術の継承はたいへん大切なことであり、それぞれの仕事にも、地元の職人の技術、製材所の協力と、この住宅に関わったたくさんの人たちの技術力の高さが結集された住宅と想像されます。床材、ど

【リフォーム賞】

「笠間の古民家」

大正時代に建てられた古民家で、馬小屋、土間、炊事場、水廻りなどのリフォームにより、「今」にあつたすまいが完成されています。

土間は、玄関とリビングになり、リビングは、当時の大黒柱、敷台、建具を活かすためステップフロアとし、馬小屋は天井の梁そのまま活かして予備室に、台所も力強い梁をそのまま活かして排気ダクトは現しとするなど、当時の部材を活かす工夫が随所になされています。

また、新材には木目と赤身がうつくしい八溝杉などを用いるなど、まさに「古き良き」を活かした住宅となっています。

このように、リフォーム等で古民家が残せることは、素晴らしいと思います。

【優秀賞】

「田園の家」

雑木林や畑の広がる自然環境に囲まれた中に建つ真四角の住宅で、住宅の中心に、六帖の二階部分がある単純な間取りの比較的小さな住宅ですが、柱、梁などの構造材には八溝杉材が使われており、二階部の屋根は大工の手刻み加工、二階部の屋根は化粧垂木の現し仕上げ、外壁は八溝杉のよい張り塗装にするなど、様々な工夫を凝らすことで、自然環境に溶け込む住宅が完成されています。



●審査委員長
一般社団法人 茨城県建築士会
会長 柴 和伸

●委員
一般社団法人
茨城県建築士事務所協会 会長 舟幡 健
一般社団法人
茨城県建設業協会 建築委員長 沢畑 正剛

茨城大学工学部都市システム工学科
教授 熊澤 貴之

茨城県木材協同組合連合会
木造建築部会長 浅川 清司

茨城県農林水産部
次長 兼 林政課 課長 磯邊 晋吾

茨城県土木部
都市局住宅課 課長 大森 智